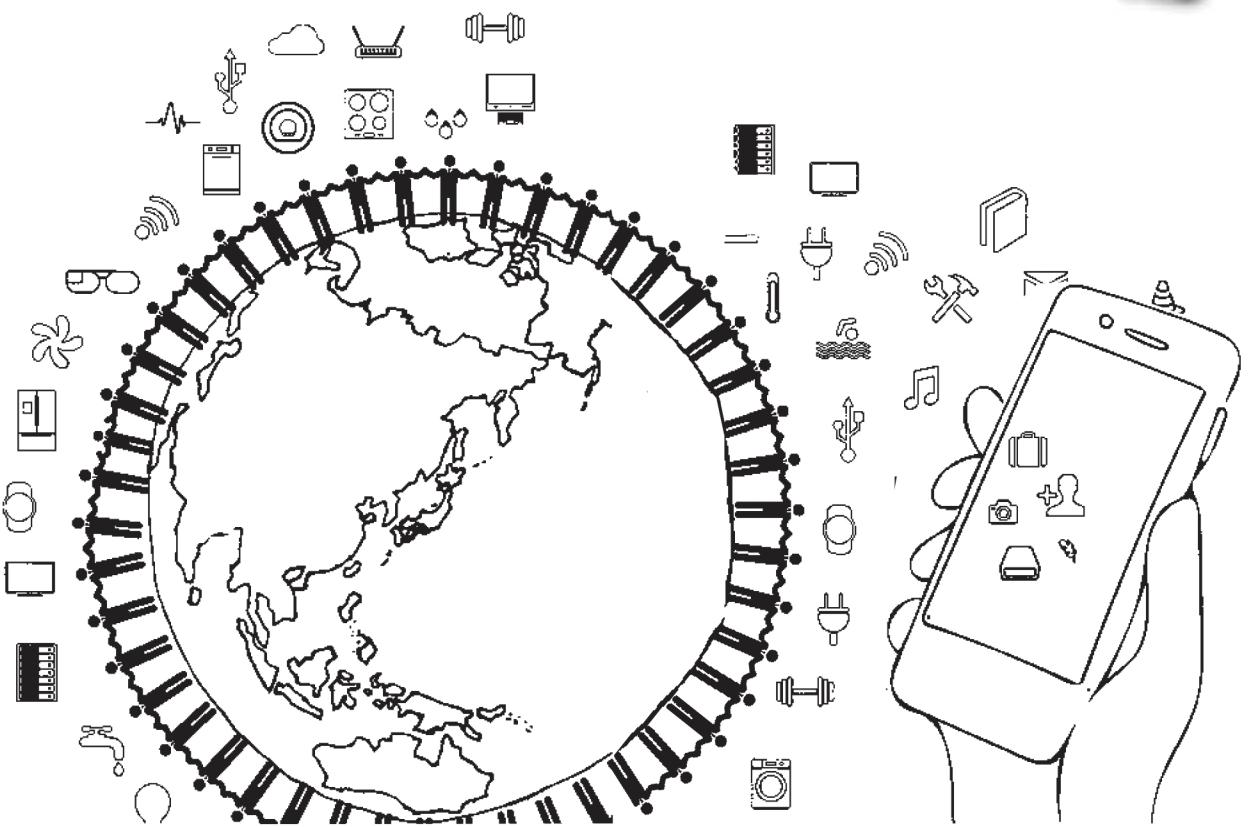


AI・IoT・DXで仕事が変わる



トと日本語では訳されています。IOTの解釈は、平たく言うと「物に通信が繋がった」ことを意味しています。パソコンやスマートフォンにインターネットが繋がることは、当たり前と思うかもしれません。が、今では冷蔵庫、洗濯機、エアコンやベッド等、家全体がインターネット経由で制御するスマートホームなども登場しています。

(株)オプティムは、2000年に設立されたIT企業（東証一部上場）で、「ネットを空気に見える」をスローガンに、インターネットをいつでも誰でも利用できるインフラとして普及させることを目的に事業を開拓しています。近年はこれまで培ってきたAI・IOT・ビッグデータの技術を産業に融合させ、高齢化や担い手不足といった社会問題解決を目指す「●●×IT」何かとITを合わせ、成長戦略の柱としています。

「●●×IT」とは、多様な産業においてIT（AI・IOT・Robotics）を活用し、デジタル技術による変革を起こして産業のDXを推進する取り組みです。



【●●×ITの事例】

新型コロナウイルスの感染拡大は現在も全世界において続いているが、依然として収束しておらず、経済活動への深刻な影響、日本国内においては、政府による緊急事態宣言が延長され、「withコロナ」や「afterコロナ」と呼ばれる「新しい常識」の時代に備えた変化が必要とされています。

少子高齢化によって労働人口が減少しつつある日本では、IT人材の不足によってサイバーセキュリティの問題や事故・災害発生によるシステムトラブルなどのリスクが生じる可能性があると言われているからです。

今、DXの必要性に迫られているのは、今までには「IT人材の不足」と「基幹システムの老朽化」などにより、大きな経済損失が生じる可能性があると言われて進めることです。

そこで、IT化は業務効率化などを「目的」として、情報化やデジタル化を進めるものであつたのに対し、DXはそれを「手段」として、変革を進めることです。

DX化とは、「企業がデータやデジタル技術を活用し、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争の優位性を確立すること」です。言い換えると、デジタルテクノロジーを駆使して、経営環境や業務プロセスなどを根本的に改善する取り組みを言います。

今までのIT活用との違いは、IT化は業務効率化などを「目的」として、情報化やデジタル化を進めるものであつたのに対し、DXはそれを「手段」として、変革を進めることです。

DX化は、経営方針やビジネスモデル、組織形態そのものを見つめ直す必要があります。そのためにも自社に合ったDXを推進していくことが重要です。

今回の特集は、当所が3月に開催した部会講演会で講師にお迎えした株オプティムの速水一仁氏の講演を基に特別寄稿文を紹介します。

今回の特集は、当所が3月に開催した部会講演会で講師にお迎えした株オプティムの速水一仁氏の講演を基に特別寄稿文を紹介します。

【テレワーク支援】

働く人のいつ、どこで、誰が、どのような業務をしているか等の稼働状況を可視化することができ、AIが時間や場所、アプリの利用状況などのデータを統合的に分析し、働き方の見直しや気付きを得ることができます。また、チャットボットという人工知能を活用した「自動会話プログラム」でリアルタイムに会話して体調等の情報を収集し、心身の健康を守るコミュニケーションサポートを行うことも出来ます。

新型コロナウイルス感染拡大は地域の飲食店・小売店・ビル・病院・福祉などの施設管理にも大きな変化をもたらしました。施設内における密集・密接の発生や、衛生管理を徹底し、お客様や従業員の感染対策を行う必要があります。

AI画像解析技術を用いて飲食店、小売店、ビルなどの施設で行う新型コロナウイルス感染拡大防止が可能です。

例えば、すでに設置している防